

令和元年度

伊勢原市まちづくり市民意識調査 概要版

【調査の目的】

本調査は、市が推進するまちづくりへの意見をアンケート形式で伺い、第5次総合計画後期基本計画に掲げる施策等に対する市民の現状の「満足度」、今後の「重要度」などを把握し、後期基本計画の施策評価に活用するとともに、次期総合計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

【調査の概要】

- (1) 調査対象：3,000人（無作為抽出による伊勢原市に居住する18歳以上の市民）
- (2) 調査方法：調査票の配布は郵送、回収は郵送又はインターネット回答
- (3) 調査期間：令和元年10月31日（木）～11月22日（金）
- (4) 回収状況：発送数 3,000件 回収数（率）1,366件（45.5%）
- (5) 調査項目 ①回答者属性
②伊勢原市のまちづくり施策
③伊勢原に対する愛着や誇りなど
④「しあわせ」実感
⑤今後のまちづくり
⑥市政情報の入手方法など

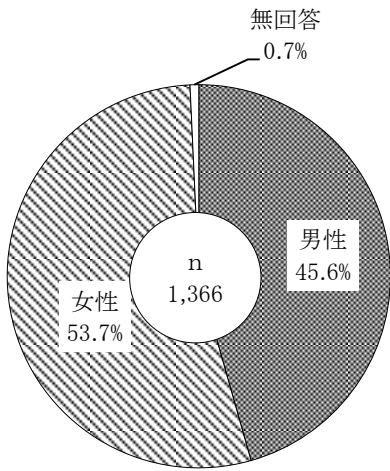
伊 勢 原 市

【概要書の見方】

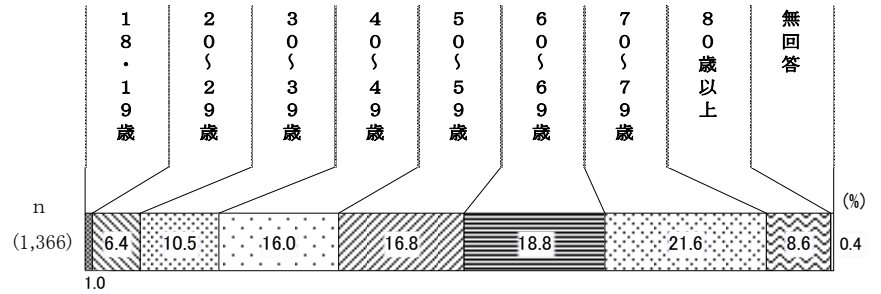
- 図表中のnとは回答者数のことです。
- 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響により、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。

1. 調査回答者の属性

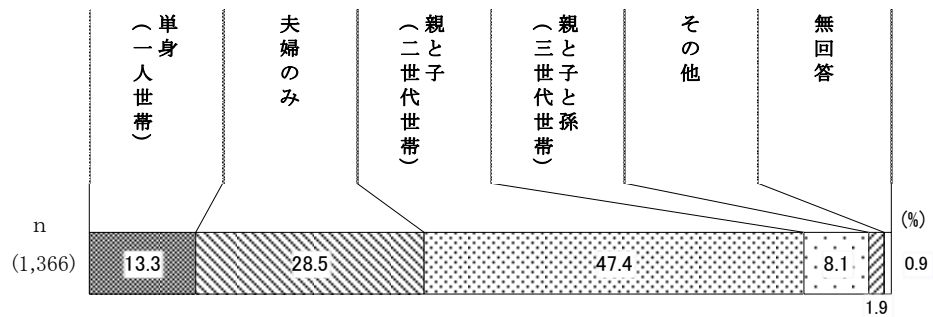
(1) 性別



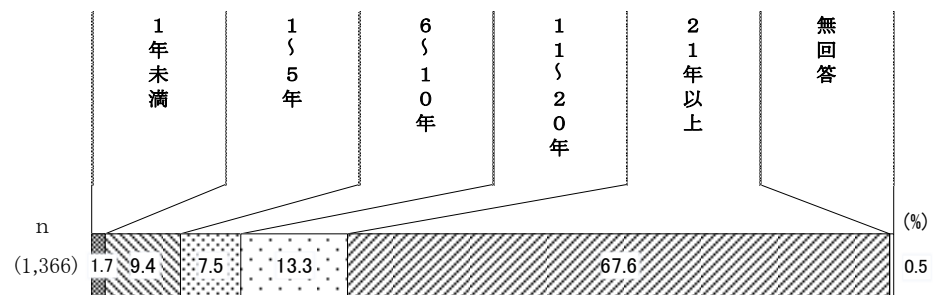
(2) 年齢



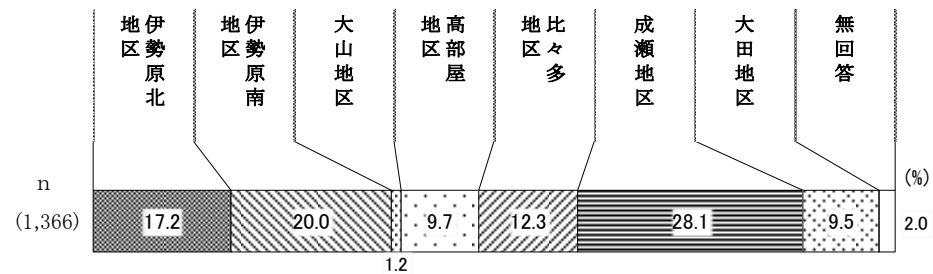
(3) 世帯の状況



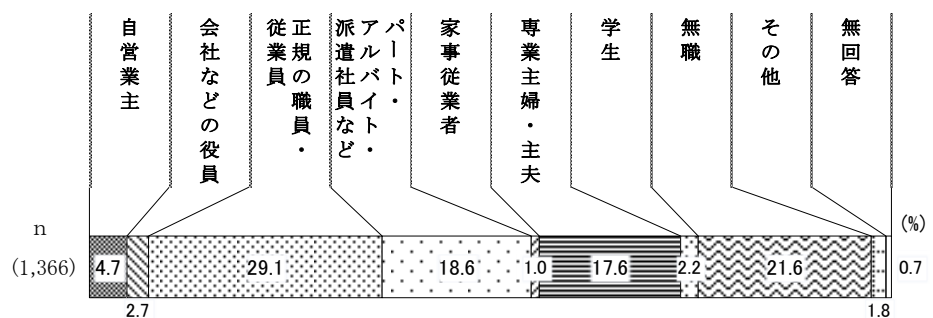
(4) 本市での居住年数



(5) 居住地区



(6) 職業



2. 調査項目と結果

平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までの5年間を計画期間とする後期基本計画が掲げる40本の施策について、施策ごとに「満足度」及び「重要度」を調査しました。

また、まちづくり全般に対する意見を伺いました。

(1) 集計方法

調査では、40本の施策について、現状の「満足度」及び今後の「重要度」をそれぞれ下表の4段階評価で伺い、数値化して、その平均点を施策の評価点としました。

※評価点は-2.00点～2.00点の間に分布し、0.00点が中間点、2.00点に近いほど評価が高く、逆に-2.00点に近いほど評価が低いことを表します。

<満足度>

評価	満足である	やや満足である	あまり満足でない	満足でない
評価点	2点	1点	-1点	-2点

<重要度>

評価	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
評価点	2点	1点	-1点	-2点

(2) 「満足度」評価点の上位10施策及び下位10施策

順位	上位施策	満足度 評価点	順位	下位施策	満足度 評価点
1位	安心できる地域医療体制の充実	0.60	31位	次代を担う子ども・若者の育成支援の推進	0.27
2位	歴史・文化遺産の活用と継承	0.54	32位	多様な働き方が選択できる保育の充実	0.26
3位	都市の機能をもつめる基盤施設の整備	0.51	33位	みんなで楽しめる公園づくりの推進	0.24
4位	迅速で適切な消防・救急体制の充実	0.50	34位	みんなで取り組む地域防災力の強化	0.24
5位	安全で快適な教育環境の整備	0.45	35位	安全な交通環境の整備	0.21
6位	魅力ある観光の振興	0.44	36位	健全で安定した財政運営の強化	0.20
7位	こころと体の健康づくりの推進	0.43	37位	市民に信頼される市政の推進	0.20
8位	平和と多文化共生社会の推進	0.42	38位	交流がひろがる拠点の形成	-0.03
9位	高齢者の地域生活支援の充実	0.41	39位	地域を支える商業・工業の振興	-0.08
10位	市民に身近な市役所づくりの推進	0.40	40位	誰もが働きやすい環境の整備	-0.13

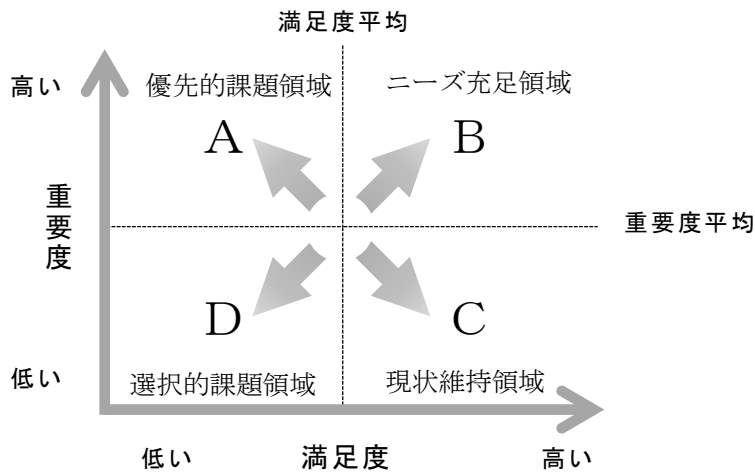
※小数点第5位までの順位付け

(3) 「重要度」評価点の上位10施策及び下位10施策

順位	上位施策	重要度 評価点	順位	下位施策	重要度 評価点
1位	被害を最小限に抑える減災対策の推進	1.64	31位	誰もが働きやすい環境の整備	1.10
2位	いざという時の危機対応力の強化	1.62	32位	みんなで楽しめる公園づくりの推進	1.02
3位	地域とともに取り組む防犯対策の推進	1.54	33位	地域を支える商業・工業の振興	1.01
4位	安心できる地域医療体制の充実	1.52	34位	個性と魅力あふれるまちづくりの推進	0.87
5位	安全な交通環境の整備	1.51	35位	学習成果を生かせる生涯学習の推進	0.86
6位	子育て家庭への支援の充実	1.43	36位	シティプロモーションの推進	0.84
7位	迅速で適切な消防・救急体制の充実	1.43	37位	平和と多文化共生社会の推進	0.79
8位	みんなで取り組む地域防災力の強化	1.41	38位	市民協働と地域コミュニティの活性化	0.74
9位	多様な働き方が選択できる保育の充実	1.40	39位	歴史・文化遺産の活用と継承	0.72
10位	健全で安定した財政運営の強化	1.38	40位	誰もが親しめるスポーツ活動の推進	0.66

(4) 満足度と今後の重要度の相関図による分析

「満足度」と「重要度」の評価点を用い、縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度をマトリクス上に示すことで、各分野の位置付けを以下のように整理することができます。



満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上 (A)、右上 (B)、右下 (C)、左下 (D) の4方向に進むにしたい、以下のような傾向を示しています。

A. 重要度が高く満足度が低い (優先的課題領域)

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域。

B. 重要度、満足度ともに高い (ニーズ充足領域)

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

C. 重要度が低く満足度が高い (現状維持領域)

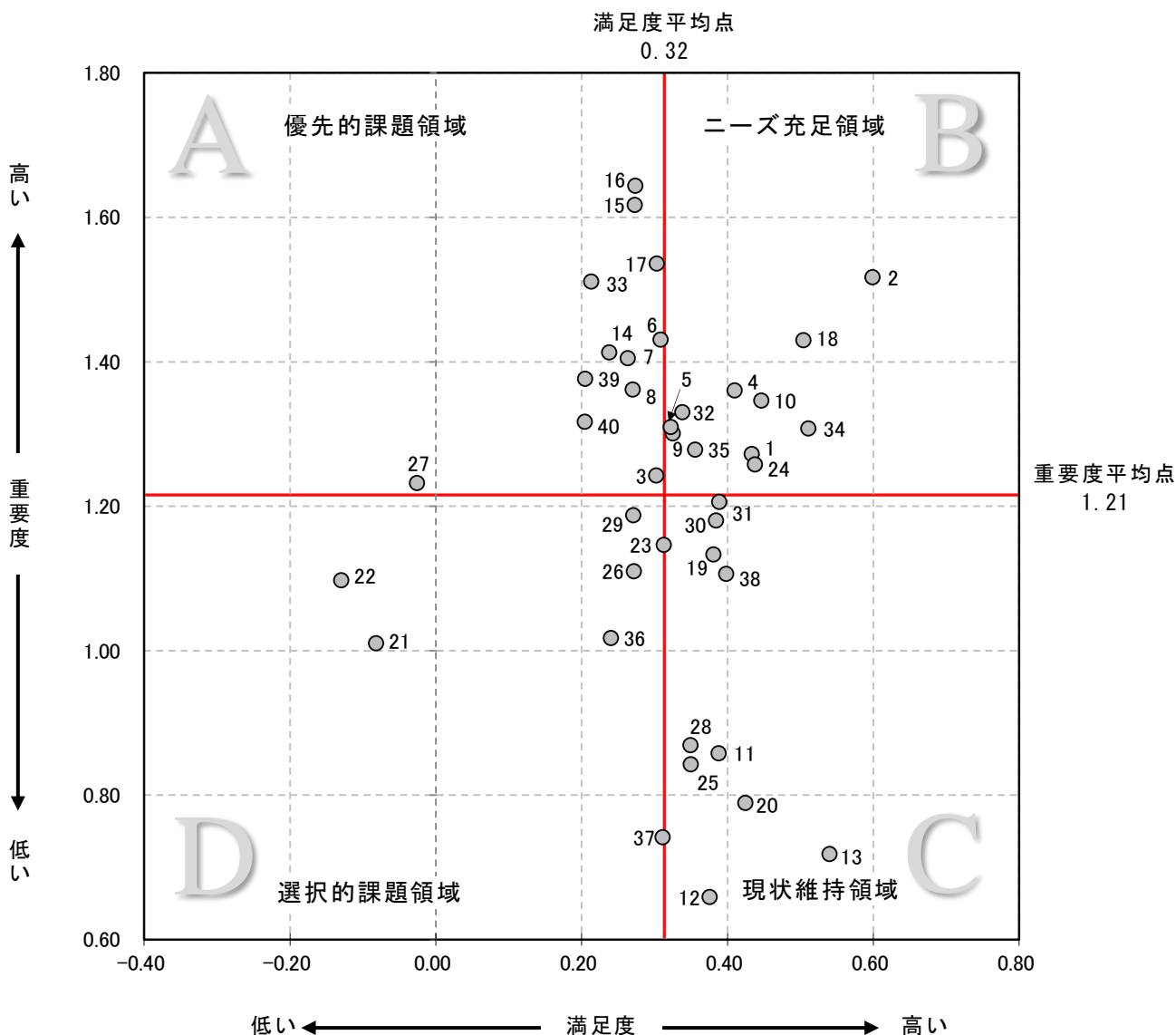
今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策の在り方を含めて見直すべき必要のある領域。

D. 重要度、満足度ともに低い (選択的課題領域)

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策の在り方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。

下図は、現状の評価と今後の重要度の相関図における40本の施策が位置する領域を示しています。

現状の評価と今後の重要度の相関図



領域	施策	施策No.
A	多様な連携による地域福祉の推進	3
	子育て家庭への支援の充実	6
	多様な働き方が選択できる保育の充実	7
	次代を担う子ども・若者の育成支援の推進	8
	みんなで取り組む地域防災力の強化	14
	いざという時の危機対応力の強化	15
	被害を最小限に抑える減災対策の推進	16
	地域とともに取り組む防犯対策の推進	17
	交流がひろがる拠点の形成	27
	安全な交通環境の整備	33
	健全で安定した財政運営の強化	39
市民に信頼される市政の推進	40	
B	こころと体の健康づくりの推進	1
	安心できる地域医療体制の充実	2
	高齢者の地域生活支援の充実	4
	障がい者の地域生活支援の充実	5
	きめ細やかな教育の推進	9
	安全で快適な教育環境の整備	10
	迅速で適切な消防・救急体制の強化	18
	魅力ある観光の振興	24

領域	施策	施策No.
B	地域公共交通の充実	32
	都市の機能をもつめる基盤施設の整備	34
	公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進	35
C	学習成果を生かせる生涯学習の推進	11
	誰もが親しめるスポーツ活動の推進	12
	歴史・文化遺産の活用と継承	13
	人権尊重・男女共同参画社会の推進	19
	平和と多文化共生社会の推進	20
	シティプロモーションの推進	25
	個性と魅力あふれるまちづくりの推進	28
	自然共生社会の構築	30
	低炭素・循環型社会の構築	31
	市民に身近な市役所づくりの推進	38
D	地域を支える商業・工業の振興	21
	誰もが働きやすい環境の整備	22
	地域とつながる都市農業・森林づくりの推進	23
	地域特性を生かした新たな産業基盤の創出	26
	快適で親しみのある地域づくりの推進	29
	みんなで楽しめる公園づくりの推進	36
	市民協働と地域コミュニティの活性化	37

(5) 前回調査から領域が変化した施策

◇令和元年度調査

◇平成27年度調査

第5次総合計画後期基本計画（施策40本）			
領域	満足度平均点	重要度平均点	
暮らし力（誰もが明るく暮らせるまち）			
健やかに生き生きと暮らせるまちづくり			
01 こころと体の健康づくりの推進	B	0.43	1.27
子どもの成長をみんなで見守るまちづくり			
07 多様な働き方が選択できる保育の充実	A	0.26	1.40
08 次代を担う子ども・若者の育成支援の推進	A	0.27	1.36
人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり			
11 学習成果を生かせる生涯学習の推進	C	0.39	0.86
12 誰もが親しめるスポーツ活動の推進	C	0.38	0.66

第5次総合計画前期基本計画（施策37本）			
領域	満足度平均点	重要度平均点	(前期基本計画における施策名)
C	0.39	1.17	01 自ら取り組む健康づくりの推進
B	0.52	1.42	07 多様な働き方が選択できる保育の充実
B	0.37	1.31	08 次代を担う子ども・若者の育成支援の推進
D	0.29	0.65	11 学習成果を生かせる生涯学習の推進

安心力（地域で助け合う安全で安心なまち）			
災害に強い安全なまちづくり			
14 みんなで取り組む地域防災力の強化	A	0.24	1.41
15 いざという時の危機対応力の強化	A	0.27	1.62
暮らしの安心がひろがるまちづくり			
17 地域とともに取り組む防犯対策の推進	A	0.30	1.54
19 人権尊重・男女共同参画社会の推進	C	0.38	1.13
20 平和と多文化共生社会の推進	C	0.42	0.79

B	0.44	1.57	13 みんなで取り組む地域防災力の強化
B	0.33	1.60	14 いざという時の危機対応力の強化
B	0.35	1.61	16 地域とともに取り組む防犯対策の推進
D	0.22	1.07	18 互いに尊重し合うまちづくりの推進

活力（個性豊かで活力あるまち）			
都市の活力を生み出す魅力あるまちづくり			
26 地域特性を生かした新たな産業基盤の創出	D	0.27	1.11
27 交流がひろがる拠点の形成	A	-0.03	1.23

C	0.37	1.05	23 地域特性を生かした新たな産業基盤の創出
D	-0.31	1.12	24 交流がひろがる拠点の形成

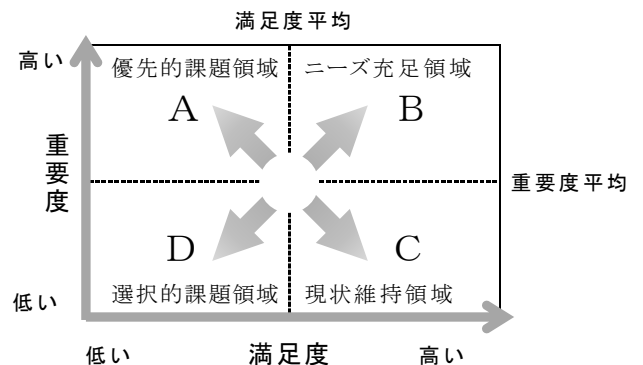
都市力（住み続けたい快適で魅力あるまち）			
自然と調和した住みよいまちづくり			
28 個性と魅力あふれるまちづくりの推進	C	0.35	0.87
29 快適で親しみのある地域づくりの推進	D	0.27	1.19
快適で暮らしやすいまちづくり			
32 地域公共交通の充実	B	0.34	1.33
34 都市の機能を高める基盤施設の整備	B	0.51	1.31
35 公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進	B	0.36	1.28
36 みんなで楽しめる公園づくりの推進	D	0.24	1.02

D	-0.20	0.65	25 地域の個性あふれるまちづくりの推進
A	0.29	1.23	26 生活環境美化の推進
A	0.21	1.26	30 移動しやすい交通対策の推進
A	0.32	1.20	31 都市の機能を高める基盤施設整備の推進
D	0.24	1.19	32 公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進

自治力（みんなで考え行動するまち）			
市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり			
40 市民に信頼される市政の推進	A	0.20	1.32

D	0.27	1.16	37 市民に信頼される市政の推進
---	------	------	------------------

領域A：重要度が高く満足度が低い
（優先的課題領域）
領域B：重要度、満足度ともに高い
（ニーズ充足領域）
領域C：重要度が低く満足度が高い
（現状維持領域）
領域D：重要度、満足度ともに低い
（選択的課題領域）



(6) 市民意識調査結果の考察

今回の市民意識調査の結果のうち、現状の満足度が高い施策と低い施策を整理し、施策に対する市民意識を考察しました。

暮らし力 まちづくり目標1：誰もが明るく暮らせるまち

施策「1 ところと体の健康づくりの推進」「2 安心できる地域医療体制の充実」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、いつまでも心身ともに健康に暮らせる環境づくりや、地域の医療環境と救急医療体制の維持等の取組が評価を受けていると推察されます。

施策「4 高齢者の地域生活支援の充実」「5 障がい者の地域生活支援の充実」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、高齢者がいつまでも自分らしく暮らせる環境づくりや、障がい者が住み慣れた地域で生活できる環境づくりの取組が評価を受けていると推察されます。

施策「9 きめ細やかな教育の推進」「10 安全で快適な教育環境の整備」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、小中学校へのエアコン設置や中学校給食の導入に向けた準備等、安全で快適な教育環境を整備する取組が評価を受けていると推察されます。

その一方で、施策「6 子育て家庭への支援の充実」「7 多様な働き方が選択できる保育の充実」「8 次代を担う子ども・若者の育成支援の推進」の重要度は平均値より高いが、満足度は平均値より低くなっており、子どもを産み育てやすい環境づくり等の取組の充実が求められていると推察されます。

安心力 まちづくり目標2：地域で助け合う安全で安心なまち

施策「18 迅速で適切な消防・救急体制の強化」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、消防・救急体制の強化の取組が評価を受けていると推察されます。

施策「19 人権尊重・男女共同参画社会の推進」「20 平和と多文化共生社会の推進」の重要度は平均値より低いですが、満足度は平均値より高くなっており、人権・男女共同参画の意識啓発や、平和の継承と多文化共生社会の構築に向けた取組が一定の評価を受けていると推察されます。

その一方で、施策「14 みんなで取り組む地域防災力の強化」「15 いざという時の危機対応力の強化」「16 被害を最小限に抑える減災対策の推進」の重要度は平均値より高いが、満足度は平均値より低くなっており、自然災害の多発による安心・安全な暮らしに対する意識の高まりを背景に、災害から市民の命を守るまちをつくるための取組の充実が求められていると推察されます。

また、施策「17 地域とともに取り組む防犯対策の推進」の重要度は平均値より高いが、満足度は平均値より低くなっており、犯罪被害に対する不安感を背景に、犯罪が起こりにくい安全なまちをつくるための取組の充実が求められていると推察されます。

活力 まちづくり目標3：個性豊かで活力あるまち

施策「24 魅力ある観光の振興」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、平成大山講プロジェクトの推進をはじめとする、地域資源等を活用した交流の活性化の取組が評価を受けていると推察されます。

施策「25 シティプロモーションの推進」の重要度は平均値より低いが、満足度は平均値より高くなっており、メディアに取り上げられる件数の増加や市公式イメージキャラクター クルリンの活用など、市の認知度向上や都市イメージ向上の取組が一定の評価を受けていると推察されます。

その一方で、施策「27 交流がひろがる拠点の形成」の重要度は平均値より高いが、満足度は平均値より低くなっており、多くの人が行き交う賑わいのあるまちづくりに向け、市の玄関口である伊勢原駅周辺整備の着実な推進が求められていると推察されます。

また、施策「22 誰もが働きやすい環境の整備」は、満足度、重要度ともに平均値よりも低い結果となっており、深刻な労働力不足を背景に、働き方改革が進められるなど、働く人を取り巻く環境が大きく変化する中、様々な人々が自分の希望に沿って働くことができる環境づくりのための取組の充実が求められていると推察されます。

都市力 まちづくり目標4：住み続けたい快適で魅力あるまち

施策「32 地域公共交通の充実」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、伊勢原駅へのロマンスカーの常時停車化など、公共交通の利便性向上に向けた取組が評価を受けていると推察されます。

施策「34 都市の機能を高める基盤施設の整備」「35 公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進」は、満足度、重要度ともに平均値よりも高い結果となっており、幹線道路や公共下水道等の都市基盤施設の整備や、公共施設・インフラの適切な維持管理の取組が評価を受けていると推察されます。

その一方で、施策「33 安全な交通環境の整備」は、重要度は平均値よりも高いが、満足度は平均値よりも低い結果となっており、重大な交通事故の報道が相次ぐ中、誰もが安全に移動できる環境づくりのための取組の充実が求められていると推察されます。

自治力 まちづくり目標5：みんなで考え行動するまち

施策「38 市民に身近な市役所づくりの推進」の重要度は平均値より低いが、満足度は平均値より高くなっており、多様な情報媒体を活用した市政広報活動の充実や、オンライン化等による行政サービスの拡大の取組が一定の評価を受けていると推察されます。

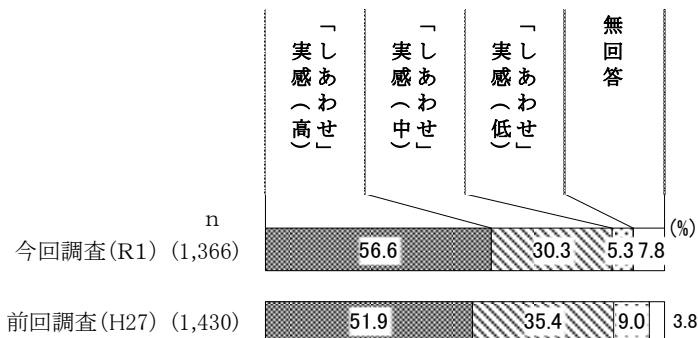
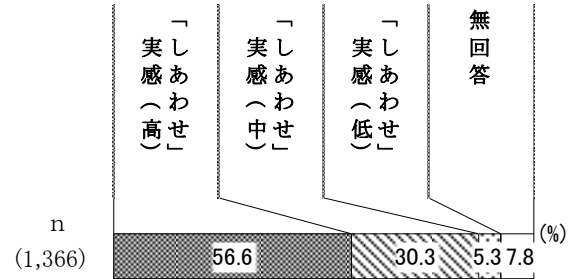
その一方で、施策「39 健全で安定した財政運営の強化」「40 市民に信頼される市政の推進」は、重要度は平均値よりも高いが、満足度は平均値よりも低い結果となっており、社会環境の変化に柔軟に対応できる健全で安定した財政運営の推進や、様々な課題に柔軟に対応できる行政サービスの提供体制が求められていると推察されます。

4. 「しあわせ」実感について

(1) 「しあわせ」実感

現在、実感としてどの程度「しあわせ」であるかを、最高を10点、最低を0点として点数をつけていただいたところ、現在の「しあわせ」実感の平均点は6.88でした。

評価いただいた点数のうち、10～7点を「しあわせ実感（高）」、6～4点を「しあわせ実感（中）」、3～0点を「しあわせ実感（低）」の3段階の区分で算出すると、「しあわせ実感（高）」は56.6%、「しあわせ実感（中）」は30.3%、「しあわせ実感（低）」は5.3%となっています。



平成27年度実施の前回調査と比較すると、「しあわせ実感（高）」は4.7ポイント増加、「しあわせ実感（低）」は3.7ポイント減少となっており、「しあわせ」実感の平均点は前回調査の6.38から0.5上昇しています。

(2) 「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項（複数回答）

「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項は、「健康状態」（57.5%）と「家族関係」（57.4%）の2項目が5割台で特に多く、以下、「良好な生活環境」が33.1%、「所得・収入」が24.0%、「趣味などの生きがい」が19.4%と続いています。

